



兵庫県立 三田西陵高等学校

自主・創造・飛翔



3月行事

学食
営業

1	日		
2	月	面談日（考査予備日）	
3	火	考査返却	○
4	水	考査返却 交通安全学習会 生徒総会	○
5	木	1年生球技大会	○
6	金	2年生球技大会	○
7	土		
8	日		
9	月		○
10	火	子どもみらい類型 課題研究発表会 (1・2限教育入門Ⅰ 3・4限教育入門Ⅱ) カウンセリング5～7限	○
11	水	検査場準備・大掃除 10:30完全下校 下校後、生徒立入禁止	
12	木	入学者選抜学力検査 生徒休業 生徒立入禁止	
13	金	生徒休業 生徒立入禁止	
14	土	生徒立入禁止	
15	日		
16	月	生徒休業	
17	火	スタディーサポート アルバイト希望者説明会 FM	○
18	水	スタディーサポート	○
19	木	個人写真・教科書販売 合格発表	○
20	金	春分の日 新入生封筒渡し	
21	土		
22	日		
23	月	大掃除 終業式 合格者説明会(午後)	
24	火	春季休業(～4/7)	
25	水	春季補習・図書館開館 (～3/31)	
26	木		
27	金		
28	土		
29	日		
30	月		
31	火		

「NIE活動について」

以前にも西陵通信でお伝えしたとおり、世界4大文明は文字の発明とともに発展しました。つまり、文字と文明は密接な関係であることから、学力を向上するためには文字に触れることが最も大切なことと言えます。

そこで、三田西陵高校では、文字に触れる活動として、今年度から2年間、新聞を教育活動に取り入れるNIE活動の指定を受け、取り組んでいます。地歴・公民科の授業や家庭科の授業などで新聞を活用しました。本館2階の家庭経営室前廊

2年生修学旅行～北海道～

26回生は修学旅行で、北海道の留寿都村・札幌市・小樽市などを訪問しました。期間は、令和2年1月22日(水)から25日(土)まででした。

修学旅行の目的は、①北海道の大自然に接し、雪国の厳しさや美しさを体感する。②スキー実習の基本技術の習得を通して、自然のなかを滑走する楽しさを体感する。③集団行動を通して社会性や公共性を育み、責任感を身につける。④班別行動を通して、協働する喜びを感じ、仲間との絆を深める。この目的を果たすために、各地で様々な活動に取り組みました。

1月22日10:40に新千歳空港に到着し、ノーザンホースパークにて昼食をとりました。昼食はジンギスカンでした。12:50からはコースごとに分かれて選択研修を実施しました。会場は、①白い恋人パーク②サンピアザ水族館③カーリング体験④大倉山スキージャンプ台でした。研修終了後、各会場から宿泊先のルスツリゾートホテルへ向かいしました。

1月23日は一日スキー実習でした。スキーの経験によって分けられたグループにインストラクターが付き、実習が行われました。生徒は、さらさらとした粉雪に驚き、感動していまし



校長 田畑 吉三

下には、皆さんの取組を壁新聞として掲示しています。いずれも、素晴らしい取組です。来年度も工夫を凝らし取組を進めていく予定です。

ただ、一方で、皆さんに「新聞を読みますか」と4段階で問うたところ、「読みます」と回答されたのは半数にも至りませんでした。確かに、ニュースもネットの時代を迎えていますので、新聞はなじみがないかも知れませんが、文字に触れる絶好の機会ですので、是非、読んでみてください。

た。実習は昼休憩をはさんで16:00まで行いました。バイキング形式の夕食の後、学年レクリエーションを行い、クラスだけでなく学年全体の親睦も深めました。



1月24日も一日実習でしたが、この日は吹雪いており北海道の冬を経験することとなりました。15:30には実習を終了し、閉講式では二日間お世話になったインストラクターに挨拶をし感謝を伝えました。

1月25日9:00にホテルを出発し11:00から13:50の間、小樽で班別活動を行いました。3日目に引き続いて4日目も寒い中での活動になりましたが、念願の海鮮丼や何段にも重なった小樽で有名なソフトクリームを食べられたり小樽運河周辺を散策したりと充実した小樽研修ができました。17:50新千歳空港を出発し19:55伊丹空港に到着、解団式を行いました。

以上で4日間の修学旅行の報告を終わります。修学旅行で育んだ「感謝する気持ち」「仲間との絆」を大切に、これからの生活をより充実したものにしてもらいたいです。





2年生 総合的な探究の時間 「課題研究発表会」

1月28日(火)6限の総合的な探究の時間に、2年生は課題研究発表会を行いました。

本校の2年生は、自ら課題を設定し、問題解決に向けて取り組むことを目標に、1年間「課題研究」に取り組んできました。生徒の興味関心にあわせて、14講座に分かれて取り組み、各講座の代表者が成果を発表しました。1時間ですべてのグループが発表することはできませんので、前後半に分けて発表会を行いました。

1 「本能寺の謎に迫る」
信長の死に関して謎が多く、有力説だけでなく他の説を検証し、本能寺の謎に迫っていました。

2 「Rabbit's Story」

恥ずかしがりやなウサギを主人公とした心温まる話を作り、小学生が英語の形容詞を学べるようなアルファベット・ブックを作成しました。



3 「二週間で10kg痩せる?ダンスとは」
YouTubeで人気となった「二週間で10kg痩せるダンス」を実際に期間を設定し、実践をした結果を紹介してくれました。ちなみに、二週間で効果は上がらなかったが、継続した結果、-7.8kg体重が減少したとのことでした。

4 「ブラック部活 -西陵高校の現状-」
本校の教員にアンケートをとり、部活動の取り組み状況と教員の気持ちを調査し、意義や教員の葛藤を理解したうえで、どう部活動と向き合うべきかを提案しました。

5 「AIと未来 ~私たちはどう生きればいいのか~」
AIの可能性を理解しつつも、今後、自分たちがどのように生きるべきか、チャレンジ精神を忘れない、柔軟な考え方をもちなどを主張してくれました。

6 「キューブパズルで木育推進」
木育を推進するために、木材のキューブパズルを制作するイベントを企画するためにはどうすればいいかを探究しました。そのために、実際に自分たちでキューブパズルを作ってみたり、会場を借りるためにはどうしたらよいかを関係する人たちに話を聞いて調べていました。

7 「人工知能が及ぼす影響」

現在の人工知能の導入例を紹介し人工知能に苦手分野があることを示しつつも、収束加速の法則から2045年には人間を超える存

在になりえるという可能性を発表しました。

8 「共通テスト(英語)について」

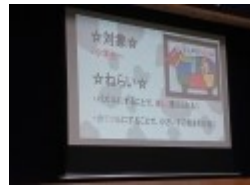
来年度から導入される共通テストのプレ版を解き、さらには設問の意図などを考察して、自分たちで予想問題を作成しました。作問の立場になることで、発見したことを発表してくれました。

9 「ジオラマで巡る?日本の文化遺産」

原爆ドームや合掌造りといった歴史遺産だけでなく、恵比寿ガーデンプレイスやスターバックスの店舗などの近代建築をジオラマで再現しました。作成していく中で、外観だけでなく内部の構造も意識しないとうまくできないと代表者が発表していました。

10 「うしの体パズル~遊んで学ぼう!うしの体!~」

普段何気なく食べているお肉の部位を覚えようというのがきっかけで、どうせ覚えるなら楽しくしようということで、カラフルにそしてパズルにしてみました。



す。小学生ができることを念頭に工夫した点を発表してくれました。

11 「世界から見た日本食」

近隣の大学の留学生にインタビューし、日本食の好き嫌いやイメージを発表してくれました。さらに、海外の日本食が日本食本来の形式や形でないことも紹介し、海外の日本食を受け入れつつも伝統も守るべきと主張していました。

12 「鬼滅の刃 ~幸せとは何か~」

漫画でもありアニメにもなっている「鬼滅の刃(きめつのやいば)」の主人公の生き方を通して、自分たちの人生に生かせる考え方をまとめました。真面目さ、継続性、家族愛に焦点を当て発表してくれました。

13 「探してみよう 食べ物の悪性!」

チョコレート、卵、炭酸飲料、牛乳を例にあげて、健康に良い面だけでなく悪い面にも目を向けさせる発表でした。また、教職員にインタビューをし、健康面で気を付けていることも紹介してくれました。

14 「The Greatest Showman」

映画の日本語訳だけでなく関西弁にすることによってより親しみやすい表現を研究していました。一例を出すと、「It will change your life.」は「人生変わんねんでえ」という風に、擬音・文法・母音と子音の発音に注意を払って翻訳していました。

三田市高校生議会

2月2日(日)令和元年度三田市高校生議会が、三田市役所本庁舎6階三田市会議場で開催されました。

選挙権年齢の引き下げにより、選挙を身近に感じるようになった高校生が、市議会会議場において市政に対する提案等を行うことを通じて、地域に関心や愛着を持ち、まちづくりの当事者としてまちづくりに参加する意欲を高めることを目的として開催されました。

市内7校から20名が高校生議員となり、市政に対する提案・質問を行い、市長をはじめ、副市長、教育長、各部長など、さまざまな市職員の皆様からご答弁をいただきました。

本校からは、生徒会執行部2名が参加しました。『自転車専用道路及びカーブミラー設置について』『待機児童の増加について』質問をしました。



最後に、三田市議会議長より講評があり、「若い人たちが、まちづくりに関心を持ち、わがふるさと三田の原動力になってほしい」とおっしゃっていました。とても貴重な経験をさせて頂きました。

